

## 今週（2月25日から3月1日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週間の当座預金残高は380兆円台での推移となった。無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.05%台と強含んでの推移となった。月末要因から28日は若干低下していた。週末は引き続き堅調に推移している。業態別では、地銀業態中心に調達ニーズが強く見られ、週初▲0.070～▲0.030%のレンジで出合っていたが、週半ばから週末にかけて▲0.050～▲0.020%のレンジまで切りあがって出合いが見られた。都銀、証券、外銀業態は▲0.086～▲0.080%程度の出合いで推移した。ターム物はGCレート上昇を受けて、裁定の資金放出ニーズが弱くなったことなどを受け、オファーが少なく閑散。地銀業態で▲0.040～▲0.020%程度で散発的に出合いが見られた程度であった。また、証券業態中心に1M～2M程度の四半期末越えの浅いマイナスのビッドが見えられた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは1日に2W物・15,000億円がオファーされた。オファー額は、このところ共通担保オペの応札額が多少増えてきたことなどもあってか、前回から7,000億円増額してオファーされた。結果は2,630億円（期落ち額708億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.08～▲0.025%程度の水準で推移した。週末にかけてレートが上昇していく展開となった。

SC個別銘柄では、5年130～138、10年336～353、20年160～167、30年55～61、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、業者の在庫に余剰感があり、足元GCレートの上昇もあってか、3M物中心に売りが散見されるマーケットとなった。

26日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。応札額が1兆円強と多く、平均落札利回較差+0.025%、按分落札利回較差+0.025%と在庫の積み上がりを反映してか、引き続き弱めの結果となった。

1日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.165～▲0.160%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1623%、按分落札利回▲0.1489%と按分がやや流れる結果となった。セカンダリーでは、▲0.159～▲0.155%出合いと底堅く推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は、月末発行が週前半にあり、鉄鋼・卸売・食料品・その他金融業態等で大型発行が相次いだ。週間入札総額は1兆8,500億円程度まで膨らんだ一方で、週間償還総額は2兆3,700億円あり、償還超のマーケットとなった。CP市場残高は21兆円台となっており、ノンバンクを除いた一般事業法人に限っても9兆円台と、引き続き高水準で推移している。これを受けて期内物の大型案件では足切レートが流れるケースも散見されたが、期越物については投資家の購入意欲が根強く、僅かなマイナスでの決着が多く見られた。

25日にはCP等買入オペがオファー額2,000億円で実施された。月末発行を控えた入れ替えニーズにより応札額が増加した。特定の銘柄が応札されたと見られることもあり、結果は平均0.005%・按分レート▲0.001%と前回比（平均・按分▲0.001%）で平均レートが上昇した。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/25 (月)	21,528.23	△ 0.040	110.80	△ 0.058	△ 0.068	3,847,400
2/26 (火)	21,449.39	△ 0.030	110.80	△ 0.052	△ 0.069	3,846,100
2/27 (水)	21,556.51	△ 0.029	110.55	△ 0.050	△ 0.059	3,838,500
2/28 (木)	21,385.16	△ 0.030	110.89	△ 0.054	△ 0.049	3,854,700
3/1 (金)	21,602.69	△ 0.015	111.70	△ 0.049	△ 0.029	3,814,300

## 来週（3月4日から3月8日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/4 (月)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 2月のマネタリーベース(日銀 8:50)				12月の米建設支出
3/5 (火)	3月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y 22,000億円 3/6発行	交付税借入 10,500億円 3/14借入		2月のISM 非製造業景況指数 1月の米財政収支 12月の米新築一戸建て販売件数
3/6 (水)	山梨県金融経済懇談会にて原田審議委員講演				米ベージュブック 1月の米製造業新規受注・出荷・在庫 12月の米貿易収支
3/7 (木)	2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 23,000億円 3/11発行	30Y 7,000億円 3/8発行		ECB定例理事会(金融政策発表) 1月の米消費者信用残高 10-12月期のユーロ圏GDP確報値
3/8 (金)	1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 43,400億円 3/11発行	エネルギー 対策借入 4,000億円 3/20借入		1月の米卸売売上高 2月の米雇用統計

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/4 (月)	700	▲ 54,100	▲ 53,400	全店共通 CP買入 国債補完 成長基盤	▲ 700 ▲ 200 200 ▲ 5,100	2,600   2,900	▲ 300	▲ 53,700	税・保険料揚げ TB3M発行▲43600償還42800
3/5 (火)	1,000	▲ 5,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	
3/6 (水)	1,000	▲ 16,000	▲ 15,000				0	▲ 15,000	10Y発行▲22000 交付税借入▲10500期日10500
3/7 (木)	0	5,000	5,000				0	5,000	
3/8 (金)	0	2,000	2,000	CP買入		3,500	3,500	5,500	30Y発行▲7000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	2,700	▲ 68,100	▲ 65,400	—	▲ 5,800	9,000	3,200	▲ 62,200	

3/4は日銀予想、3/5以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給は4日が税揚げによる大幅な不足日となることが見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは引き続き▲0.05%前後で小高く推移することが予想されるが、じりじりと上昇する可能性もある。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、レートは引き続き高い水準での推移が予想される。短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札が実施予定となっており、軟調なマーケットの中、落札水準が注目される。CP市場は、月初となり期内物の発行が減少してくると思われる中、早めに4月から5月にかけての10連休越えを調達する動きも出てきており、発行金利の動向が注目される。3月のCPオペはオファー額が3,500億円に増額されることから、レート低下が期待される。

主要なイベントとしては、国内では8日の10～12月期のGDP2次速報、海外では6日にベージュブック、7日にECB定例理事会、8日に2月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入